

急拡大する中国の金需要

～ 中国の金需要はインドと並ぶ 600 トンまで拡大する可能性 ～

2006年 7 月19日 (木)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

～ 要 旨 ～

世界の金（ゴールド）需要が拡大している。05年の金消費は3754.3トンと、2004年に比べて + 7.1%の大幅増となった。

宝飾用の金消費が最も多い国は、ダウリー（持参金）制の慣習が残っているインドだが、中国も米国に続く世界第3位の金消費量を誇る。中国の宝飾金需要は、近年急増しており、2005年は前年比 + 7.7%の241.4トン記録した。もともと中国人は、金のアクセサリーを好む国民性を持っているので、人々の生活水準の向上によって金購買層の裾野に広がりが見え始めてきたと考えられる。

また、中国では宝飾用需要に加えて、投資目的での金の購入も増えてきている。投資目的の金需要は、2005年に前年比 + 19.4%の11.7トンとなった。投資需要の増加は、政府の規制緩和政策によるところが大きい。これまでは中国人民銀行が金の取り扱いを独占的に行い、個人投資家の金への投資は制限されていた。しかし、中国当局は、2002年10月に上海に金取引所を設置し、金の取り扱いを民間に開放するようになった。

さらに、今後は中国人民銀行による金の購入も増えてくる可能性がある。輸出の増加を背景に、中国の外貨準備高は急増しており、2000年末の1655.7億ドルから2006年3月末時点には8750.7億ドルへと約5.3倍にも膨らんだ。外貨準備高がこれだけ巨大化すると、ドル安が進展した場合の資産価値の損失リスクも無視できないほど大きなものとなる。当局は外貨準備資産を分散させる方針を示しているが、金も資産分散の対象になるとみられる。

足元の金の国際価格は急騰しているが、こうした中国要因が無視できない影響を及ぼしているといえよう。英国の調査会社、ゴールド・フィールズ・ミネラル・サービス（GFMS）は、宝飾用と投資用を合わせた中国の金需要が数年内にインドと並ぶ600トンまで拡大するとみている。

金相場は、投機も含めて様々な要因が複雑に絡み合って形成されるため、先行きを見通すことは難しいが、需給面のみに注目すると、最大の金消費国であるインドで需要が一段と拡大するほか、金の個人購入解禁措置などによって中国における個人の金購買意欲も高まると見込まれること、金生産国である南アフリカで鉱山の開発が遅れ気味となっていること、欧州の中央銀行による金の大量売却がピークアウトしたことなどから、当面、金需給の逼迫した状況が続くとみられ、これらが金相場の押し上げ要因として作用するのではないかとみられる。